

インターバンクの声（2016年10月25日）

昨夜のドル円は、ロンドン市場でも東京市場からの103円80銭から104円までの高値と安値の幅が20銭しかない取引が続き、ニューヨーク勢が動き始めた頃に一旦は104円越えを狙ってみたが失敗に終わった。それでも米中長期金利は上昇しており、原油価格がロンドン市場の序盤から少し下げているのが気になったが下げ幅も小さく、何か材料があればもう一度ドル買いに動き出す予兆はあった。そこへ格好のドル買い材料となったのがマーケット発表の10月米購買担当者景況指数(PMI)速報値の強い数字だった。最近では雇用統計の次くらいに注目度が高まっているISM(供給管理協会)発表の製造業景況指数ならいざ知らず、あまり注目度が高くないマーケットPMIの発表が壺にはまってしまった格好だ。それでも104円手前から104円30銭越えまで上昇したに過ぎず、10日ほど前の104円60銭台に近づくような勢いはなかった。来週の連邦公開市場委員会(FOMC)前のブラックアウト期間入りとなることから、連邦準備制度理事会(FRB)高官の講演も昨日と今日で一区切りとなる。昨夜の講演で、セントルイス連銀のブラード総裁が追加利上げの時期に触れなかったのが少し気になるが、あまり深く考えないほうが良いだろう。ドルは堅調だが、ドル円に関しては104円50~60銭の節目越えが鍵になりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。